

# こじま信太郎 Hassin!

## 改革新年

～シン・キョウトを目指して～

### ■ 新年の思い

京都は古い伝統を守り続けてきたまちのように思われますが、伝統のなかにも各時代に訪れた危機に向き合い、革新を続けてきたからこそ千年の発展があるといえます。

応仁の乱のあと、町衆の力で荒廃した京都が再興したこと、東京奠都後の衰退から琵琶湖疏水事業でまちに賑わいを取り戻したことなど、新たなうねりで危機を乗り越えてきました。

財政危機・人口流出など、課題が山積する今こそ、京都市には思い切った改革が必要です。京都だけでなく日本全体に深刻な課題が蔓延するなかで、「変わらないのが一番」というのは成り立たず、「**変わらなければ衰退する**」という危機感のもと、**徹底した改革**が求められていると確信しています。

あらゆるなかで、変わることが出来なかったこれまでを見つめ、シン・キョウトとして次の千年に歩み出すための改革に向けて、「市政にまっすぐ」努力精進を続けてまいりますので、引き続きのご指導・ご意見をよろしくお願いたします。

革新



### ■ 住みたいと選ばれるまちに

初当選以来、代表質問等を通じて京都市の子育て施策について質問してきました。人口獲得競争が激化するなかで、子育て施策に注力することは自治体としての防衛政策のようなものといえます。手を挙げれば若年人口が他の自治体に逃げ、まちの活力は失われ、現役世代が減ることで福祉施策が成り立たなくなり、衰退の一途をたどることになります。

これまでの質問で確認したことは京都市は決して「子育て施策に手を抜いている」「予算をかけていない」訳ではありません。しかしながら、**子どもや保護者のニーズと噛み合わず、直接支援が行き渡るような施策が少ないこと**で、かけた予算の3分の1も効果が伝わっていないのは残念なことです。京都市は他都市に先駆けて取り組んできたという絶対評価から抜け出せずに、自治体間競争における**相対評価において、子育て世代から高い評価を得ることが出来ずにいます。**

9月市会の代表質問では、政令市トップクラスという評価に甘んじず、子ども医療費無償化を求めるとともに、先進他都市の取組みとして松戸モデルを取り上げ、保育士に伝わる待遇改善制度の導入、子育て世代のニーズから乖離している「国基準の待機児童ゼロ」からの転換について求めました。

今あるイメージからの転換は決して容易ではありません。既定路線の取組みではなく、**住みたいと選ばれるまちに向けて突き抜けた改革が必要**です。



### ■ 次世代交通と交通格差解消

山科区においては3箇所交通格差解消に向けたMM（モビリティマネジメント）活動を実施いただいております。これまで、交通不便地域にバス路線を確保するためには、予算が一番の課題でした。MM活動でバスに乗る方を増やすことで、路線を持続的に経営するためのハードルを越えることが目標でした。

しかし2024年問題を皮切りに、バス運転手不足が深刻な課題となっており、たとえ需要や資金面がクリアできても**運転手が確保できずに路線の増加は非常に困難**になっているのが現状です。

交通不便地域においては、ライドシェアや自動運転、オンデマンドバス等、需要の高い観光路線においてはBRT（連節バス）等、**次世代のシン・交通システムが必須**になります。

国の取組みや補助金制度が進むなか、いかに京都市に民間活力や実証実験を引き込むことが出来るかが焦点となります。

財政も、子育ても、交通も課題があるからこそ思い切った取組みが必要です。ピンチはチャンスと機運を切り替え、京都市が前に進んでいけるよう質問、提案を続けてまいります。

代表質問を動画でご覧ください

質問テーマ



- ・改革の検証と今後について
- ・人口獲得競争と子育て施策
- ・学校の公休制度について
- ・まちねご活動支援について
- ・交通不便解消に向けて（要望）

↑こちらのQRコードから代表質問を動画でご覧いただけます



市政をまっすぐ  
あなた  
市民に届ける

### 小島 信太郎

プロフィール

- 1986年（昭和61年）11月10日生まれ
- 衆議院議員 前原誠司 元秘書
- 産業交通水道委員会 副委員長
- 家族：妻、長女（8歳）、長男（6歳）、猫達
- 特技：社交ダンス、剣道（2段）、和太鼓
- 地域：山科消防団大宅分団 班長  
大宅ソフトバレーボール同好会 部長（腕前はまだまだ…）
- 好物：ラーメン、蕎麦、たこ焼き、ゴミ
- その他：京都東山ボーイズ顧問



### 発行元・お問合せ先

#### こじま信太郎事務所

〒607-8142 京都市山科区東野中井ノ上町 7-68  
（東野駅徒歩8分）

TEL：075-582-1115

FAX：075-582-1116

E-mail：kojima.hassin@gmail.com



活動内容に関する情報をSNSを通してお届けしています。



こじま事務所  
Instagram



LINE 友達追加



# ラーケーションって何?!

## 学校の公休制度を考える

愛知県で9月から「ラーケーションの日」という聞き慣れない制度が導入されました。同じく大分県別府市では「たびスタ」という制度が始まりました。どちらも年に3日まで、子どもが学校を休んで保護者と出かけることが出来る制度です。\*

愛知県では保護者の約45%が土曜日に、約30%が日曜日に働いていること、温泉観光地である別府市でも繁忙期となる土日に働く保護者の割合が多いことが制度導入の背景となっています。学校は原則土日祝日が休みですが、**土日に仕事をする保護者が多いことで、子どもと一緒に出**

**かける機会が失われてしまっています。**

学校の授業が大事であることはもちろんですが、保護者と出かけることで得られるかけがいのない経験・思い出、それにより深まる親子の絆は、何よりも重要です。

本来は、各家庭の事情に合わせて、学校を休んで出かければいいと思うのですが、なかなか、堂々と休みづらいというのが現実です。風邪を引いたと嘘をついて、コンコンと出かけています、というような話も伺います。

先陣を切った2つの制度を引き合いに、学校における公休制度の導入について代表質問で提案しました。休んだ分の学習補償はどうするんだ、というお声もありますが、何より重要なのは**学校に行くことだけが学びではないという学びの多様性**だと考えます。不登校の児童が増えているという課題についても、登校するというのを唯一のゴールと考えず、多様な学びの在り方を示すことが出来ることが大事です。

※「ラーケーション」は「Learning (学ぶ)」と「Vacation (休暇)」を合わせた造語であり、学びや体験をすることを条件に公休を取得出来ます。

# かわいそうな猫を減らすために

殺処分されるかわいそうな猫をゼロにするため、京都市では「まちなこ活動支援事業」でTNR※活動を応援してきました。

しかしながら、申請の条件として、「自治会・町内会長の承認」など、高いハードルがあり、実施件数は決して多いとはいえない現状です。

まちなこ活動には地域の理解が必要なことはもちろんですが、野良猫がいる地域においてTNRを行ったことで、状況が悪化することは何もありません。

それどころか、猫は繁殖力が強いので、手をこまねいている間に子どもが生まれ、野良猫の数が増えて悪化することは少なくありません。結果的に、個人や民間の保護猫団体の取組みに委ねられてしまっているのも事実です。

TNR活動と地域理解を同時並行で行うことと、去勢避妊手術の受け入れキャパシティの確保が必要です。ふるさと納税やクラウドファンディングによる資金調達や、獣医師の協力を得るなど、事業強化に向けた工夫も考えられます。かわいそうな猫を減らすことはもちろん、地域の問題解決に向けて、更なる取組みが必要であることを求めました。



▲うちの保護猫たち

※TNRとは「Trap (捕獲)」して「Neuter (去勢不妊手術)」を行い、「Return (もとの場所に戻す)」という意味です。野良猫で、家猫として飼うことが難しい猫に対して行い、これ以上野良猫の頭数が増えないようにする取組みです。



# 山科 魅力発信 Love 疏水

山科の名所のなかでも私がイチオシするのが山科疏水です。東京奠都により意気消沈した京都のまちを復活させた事業であるという大志と浪漫に胸が躍ります。

蹴上から山科を通して、三井寺の辺りまでを巡る「びわこ疏水船」ですが、クラウドファンディングによって、琵琶湖と疏水の5、60cm水位差を調節するための装置・閘門を整備することが可能となり、疏水船は大海原(琵琶湖ですが...)に漕ぎ出すことが可能になりました。

来年以降、実際に琵琶湖の周遊を含んだコースも導入されるなかで、私からは、中間地点となる山科の乗降場をもっと活用して、より手頃に疏水船を楽しんでいただくとともに、観光分散を図ることが重要だと求めています。ぜひ山科の方にも山科から疏水船を楽しんでいただきたいです。

11月には駅伝大会が開催されるなど、一層盛り上がる山科疏水を糧に、もっと山科に賑わいを醸成していきたいと思います。



# PICK UP 「香害」って何??

9月市会で「香料成分に起因する健康被害について対策の促進を求める意見書」を全会一致で提出しました。

近年、柔軟剤等の香料成分に起因した化学物質過敏症で苦しむ方が増えており、私も啓発展示を拝見したり、患者の方から相談を受けました。宝塚市の調査では、小中学生の8%程度が「人工的な香料によって体調不良を起こした」と答えており、この被害は次世代で更に大きくなるのではないかと懸念しています。

ただ、「香害」という言葉はあまり使いた

くないと思っています。「害」という言葉を用いると患者がいるようになりますが、現状では、因果関係が不明確で規制もなく、販売する企業も使用する購買者も悪意も罪もありません。

しかし、困っておられる方がおられること、今後も被害が増えてしまう心配があることに鑑みて、早急に調査研究を進め、必要な対策を講じることを国に求めました。



# CHECK! 教育が1丁目1番地!

こじまが政治の道を目指した初志は教育改革です。国政における教育改革に向けた取り組みを応援しています。



全ての子どもに学ぶチャンス!

衆議院議員  
**まえはら 誠司**

YouTubeで  
国政報告  
配信中▶▶